

進行性多巣性白質脳症(PML)診療 1年間の進歩

研究分担者: 独立行政法人 地域医療機能推進機構 佐賀中部病院 神経内科 雪竹基弘

PML発症の報告がある薬剤

分類	薬剤		
糖質コルチコイド	すべて		
アルキル化薬	Cyclophosphamide	Dacarbazine	Camstine
プリン代謝拮抗薬	Fludarabine	Azathioprine	Cladribine
葉酸代謝拮抗薬	Methotrexate		
抗体医薬品	Natalizumab Alemtuzumabなど	Rituximab	Efalitumab
免疫抑制剤	Cyclosporin Tacrolimus	Silolimus Mitoxantrone	Cyclosporine Mycophenolate mofetil
その他	Diaphenylsulfone Vincristine	Fumaric acid Interferon β1aなど	Fingolimod

抗体医薬品（生物由来製品）においては、現在16種類のPML発症が知られており、そのうち12種類は本邦でも使用されている。

このうち、多発性硬化症の再発予防に使用されるナタリズマブは明らかにPML発症リスクを上げる薬剤である。本邦での発症はないが、海外データにより、発症リスク、臨床及び頭部MRI画像の特徴、治療法などの知見が進んでいる（無症候性PMLの段階で診断・治療を行う重要性は昨年度提示した）。

解 説

1. PML発症の報告がある薬剤の増加とナタリズマブの位置づけ.
2. ナタリズマブ関連PMLへの対応の重要性.

(主に「診療ガイドラインの策定・改訂」に該当.)